施業図を再利用したワークショップの実施

山形森林管理署最上支署　地域技術官　　○蓮尾　直志
業務グループ　○友　　一平
総務グループ　○照井　彩水
治山グループ　○佐々木　尚

１．はじめに

山形森林管理署最上支署では平成２７年度から第５次国有林野施業実施計画が動き出し、それに伴い国有林野施業実施計画図も更新されました。「施業図」や「２万分の１」、年代によっては「事業図」などと呼び、現場に持って行き現地の確認を行ったり、林道の計画線を記載したり、様々な場面で利用している図面です（**写真１**）。当支署には１３箇所の施業図があり、地図専用紙とユポ紙で作製された計２６種類があります。

国有林野施業実施計画図（以下、「施業図」という。）の更新により新しい図面が導入されると、それ以前の古い施業図は未使用であっても、記載された情報の正確さの観点から古いものから順に使うというわけにもいかず、使用方法が限られることとなります。また、図面の利用形態も、最近ではGISやPDF化したものなど、電子化での使用が進んでいます。そのため、必要数を保管した上で、取り扱いについて署の判断に委ねられているこれらの一部を、一般的な業務と異なる形で有効活用ができないかと考えていました。

そのようなとき、「海図文具シリーズ」（**写真２**）というものを知りました。海図文具とは、文房具会社が企画・販売を行っている、海上保安庁の廃版海図を再利用したノートやブックカバーのことです。海図から切り出された柄は一つ一つが異なり、デザイン性や希少性の面からも非常にユニークな商品です。

このため、施業図でも同様にブックカバーなどへの応用や関連したワークショップの実施などが可能ではないかと考えましたが、アイデア止まりの状態でした。

写真１　施業図の利用

写真２　海図文具のノート

２．実現に向けて

これまで、当支署では地域のイベント等にブースを出展する際には、自治体などの主催者側から要請を受けて巣箱作り体験などを主に行っていました。しかし、今回は当支署から古い施業図の活用に向けたワークショップの提案を若手職員発案で行うという新たな取組であり、実行に際してそのようなノウハウを有する職員がいないのが現状でした。

ブックカバーなど、という発想が基点にあることから、管内にある新庄市立図書館（以下、「図書館」という。）関係者へ話を持ちかけたところ、簡単な趣旨説明の段階から好印象を得たこと、また、図書館側も様々な団体との連携を行っている実績があるということから、当支署と図書館がコラボする形でワークショップの実現に向けた動きが始まりました。

図書館との１回目の打ち合わせでは施業図自体の説明から始め、実際の図面とブックカバーとして加工したものを用いて再利用方法についてや参加可能イベントの検討を行いました（**写真３**）。

この段階で、産直イベントの図書館ブースに併設して行うことが決まり、ワークショップの内容もブックカバー作りよりも一手間掛けることで達成感や愛着を持ってもらいやすくイベント中の買い物にも利用してもらえるのではと考え、耐久性・耐水性に優れるユポ紙を用いたエコバッグ作りとなりました。また、今回の取組には平成２８年度当支署の新規採用者もOJTを兼ねて打ち合わせ段階から積極的に参加しました。

２回目の打ち合わせでは、当日の日程の確認、必要な道具や材料の準備・数量の確認、当支署が行う展示内容等の説明を行いました。

なお、施業図は国土地理院の地形図を承認を得て使用していることから、材料として使用することに関して同院に申請等の手続きが必要か問い合わせたところ、「精度を有さないイラスト的な使用であれば、申請不要での利用の範囲内」であることを確認しました。

支署内の打ち合わせでは、安全性を考慮した刃物の使用の可否や、国有林のPRとしてどのような展示や配布物を作製するかなどの検討を行いました。また、ワークショップ時に参加者に対してエコバッグの作成手順の説明を行わなければならないため、どの位置を接着すれば丈夫で作りやすいものになるのかといった検討や作製練習も行いました（**写真４**）。

写真３　図書館との打合せ風景

写真４　当日にむけた作成練習

３．ワークショップの実施

今回参加したイベントは、今年で５年目を迎える「キトキトマルシェ」という産直イベントで、雪の無い５月から１１月までの第３日曜に山形県新庄市にある「エコロジーガーデン」という農林省蚕糸（さんし）試験場新庄支場跡地で開催されています。毎回、県内外から１，０００人以上の来場者があり各回異なるテーマに沿って約３０の農作物・クラフト・飲食等の出店があります（**写真５，６**）。「キトキト」とは、最上地方の方言で「ゆっくり」や「のんびり」を意味するそうです。

当日は「お米と発酵食品」がテーマで、新米や味噌などが並んでいました。また、客層は子供連れの若い夫婦などが目立ちました。産直以外にも様々な団体による薪割りや木工、パステル絵の体験を行うことができ、敷地内にはウッドデッキや木製ブランコ、ハンモックが設置されていました（**写真７**）。

図書館でも、読み聞かせや本の貸し出しのほか当日のテーマに沿った発酵食品に関する本と併せて、森林や林業に関する本の紹介をしていただきました（**写真８**）。

写真５　キトキトマルシェの様子

写真６　キトキトマルシェの様子

写真７　敷地内の様子

写真８　図書館による本の紹介

ワークショップは午前と午後の２回に分けて行いました。計５０組以上の参加があり、支署職員と図書館職員の合わせて６名で作り方の説明を行いました。職員は一人で複数の参加者の対応を行わなければならないほど盛況でした。

参加者は大きな図面を折る作業や持ち手を通す穴にハトメを打ちつける作業に手こずりながらも、おもいおもいのバッグを作製しました（**写真９，１０**）。また、材料となる施業図は自分が住んでいる地区を選んでいる方が多かったです。

今回のエコバッグ作りでは、一般的に紹介されている折り方の「標準型」と、小さな子供でも作れるように、折り紙のコップを応用した「コップ型」の２種類を用意しました（**写真１１，１２**）。

さらに、参加者に、より森林・林業に興味を持ってもらえるように、造林地や林齢などの違いが実際にはどのように見えて施業図にはどのように表記されているのかを比較したパネルを設置すると共に、施業図に記載されている記号や林齢などの用語を説明した紙の配布を行いました（**写真１３**）。

ワークショップと並行してポケットコンパスや測桿など業務で使用している道具の展示・説明を行いました。特に、手に取りやすく遊び感覚で扱ってもらえる輪尺やジェットシューターは小さな子供に人気でした（**写真１４，１５**）。

写真９　ワークショップの様子

写真１０　ワークショップの様子

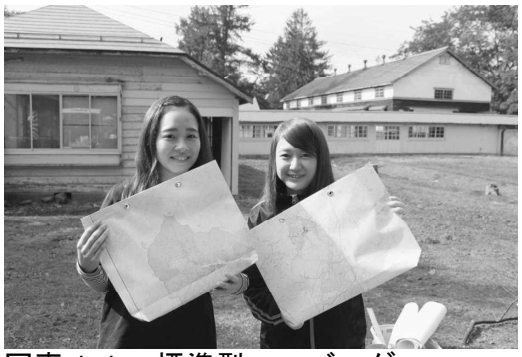

写真１１　標準型エコバッグ

写真１２　コップ型エコバッグ

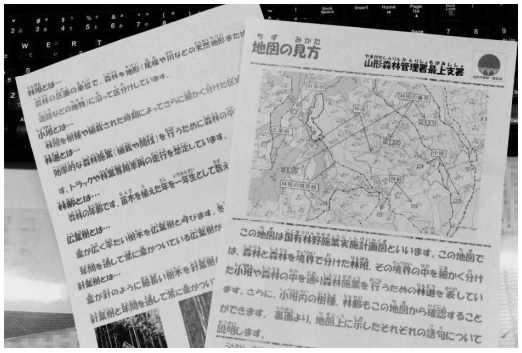

写真１３　配布した地図の見方

写真１４　道具展示・体験の様子

写真１５　道具展示・体験の様子

４．成果と課題

ワークショップの反響として、事前に図書館側からフェイスブックにエコバッグの写真と共に告知の投稿をしていただいたところ、「森林の地図とはレアだ！」「面白い取組！」などのコメントが寄せられていました。また、後日、「参加できなかったので、次のコラボを企画してほしい」という声も寄せられていました。さらに、ツイッターにも当日ワークショップに参加された方の投稿がされており、多くの方の目に触れることとなりました。

その他にも、図書館職員からは「午前中は順番待ちが出るほど大盛況だった」、「地図の見方の紙を渡していたので、より興味を持ってもらえたと思う」と感想を頂きました。

今回の取組で、古い施業図の再利用にあたっての一手法を示せたことは当初の課題に対して十分な成果を上げることが出来たと思います。さらに、国有林のPRという観点からは、通常、森林管理署として参加するイベントは「林業まつり」などといった森林・林業に関連した催しが多いことから、ある程度、森林・林業に関心があると思われます。一方、今回参加したイベントは、「営林署」や「森林管理署」と言っても伝わらないような若い世代も多くみられ、普段、林業などと接点のないと思われる人々に対して国有林を知ってもらい、関心を持ってもらうきっかけ作りができたと思います。

また、ワークショップ自体も「図書館」という地域に根ざした団体と共同で実施することができたため、森林管理署単独での実施よりも参加しやすい状況だったのではないかと思います。

今回の取組は、施業図の再利用と並行して国有林のPRも行いました。

PR活動とは、継続的に多くの人に接してもらうことで効果が得られるものだと考えます。そのため、来年度以降も同様なワークショップの企画を行い、担当者が異動したことによって自然消滅とならないように署内外の理解と協力が不可欠です。

また、参加者に対して国有林や森林･林業に対する意識調査を行うことができれば、より効果的なワークショップ及びPRを行えるのではないかと考えます。

５．まとめ

古い施業図の再利用という課題から始まった今回の取組は、これまで接点の無かった団体との繋がりや、新たな観点からの国有林のPR方法など想定以上の成果をもたらしたと感じます。今後も、可能な範囲で継続してワークショップなどを行うことにより、幅広い国有林のPRを行うことができれば幸いです。